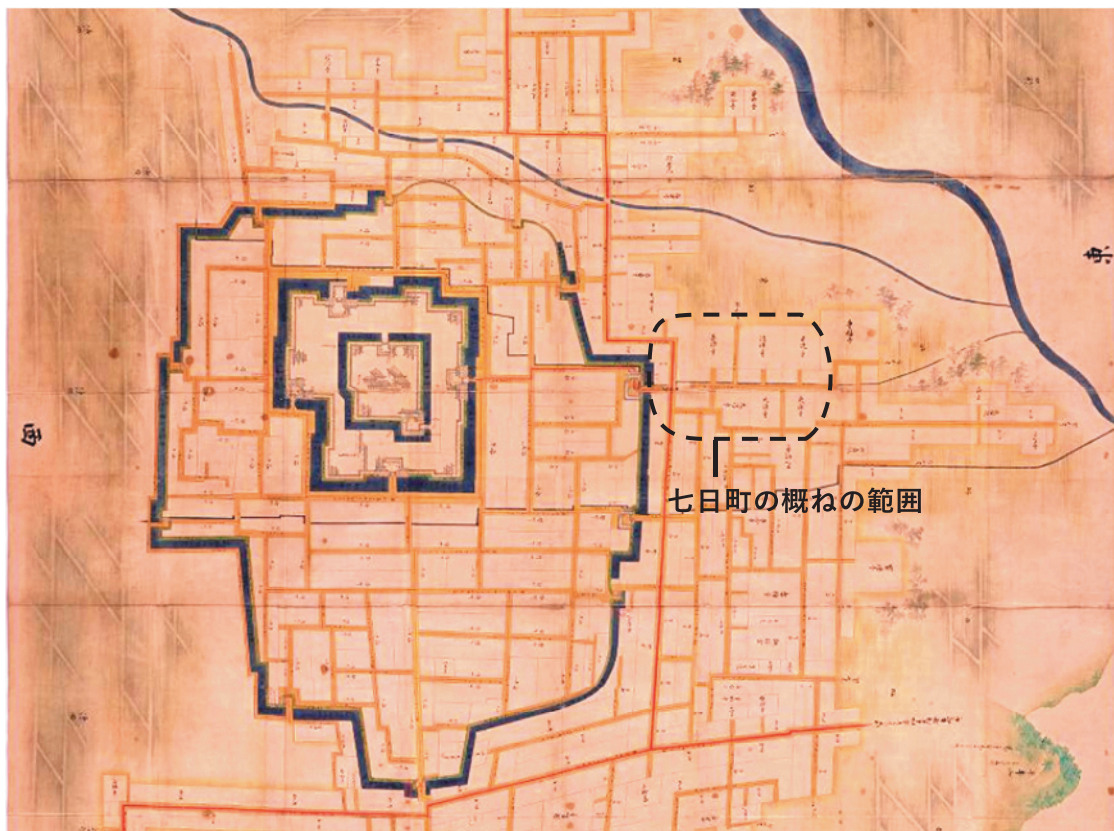


第1章 七日町御殿堰周辺地区の位置づけ、景観の現状

1 七日町の歴史



〈正保城絵図（1644 年頃） 国立公文書館所蔵 加筆〉

七日町は羽州街道沿いに発展した山形城下の商業地であり、十日町と並び紅花市が開かれる特権町でした。

七日町を含む山形城下の街路は、江戸時代に馬見ヶ崎川の扇状地の等高線に沿って造られた南北街路が経済上の幹線道路としてその役割を担い、東西街路は、軍略上の理由から丁字路やかぎ型路が作られており、現在も一部その面影が見られます。

町屋等は四間半～五間の間口、三十間の奥行の地割が多く、現在でも奥行きのある長い地割が散見されます。

江戸時代の七日町は町屋のほか、その後背に寺社、武家屋敷が立ち並ぶまちなみが見られましたが、明治には料亭が創業、近年では、町屋の雰囲気尊重した商業建築等が見られるようになりました。

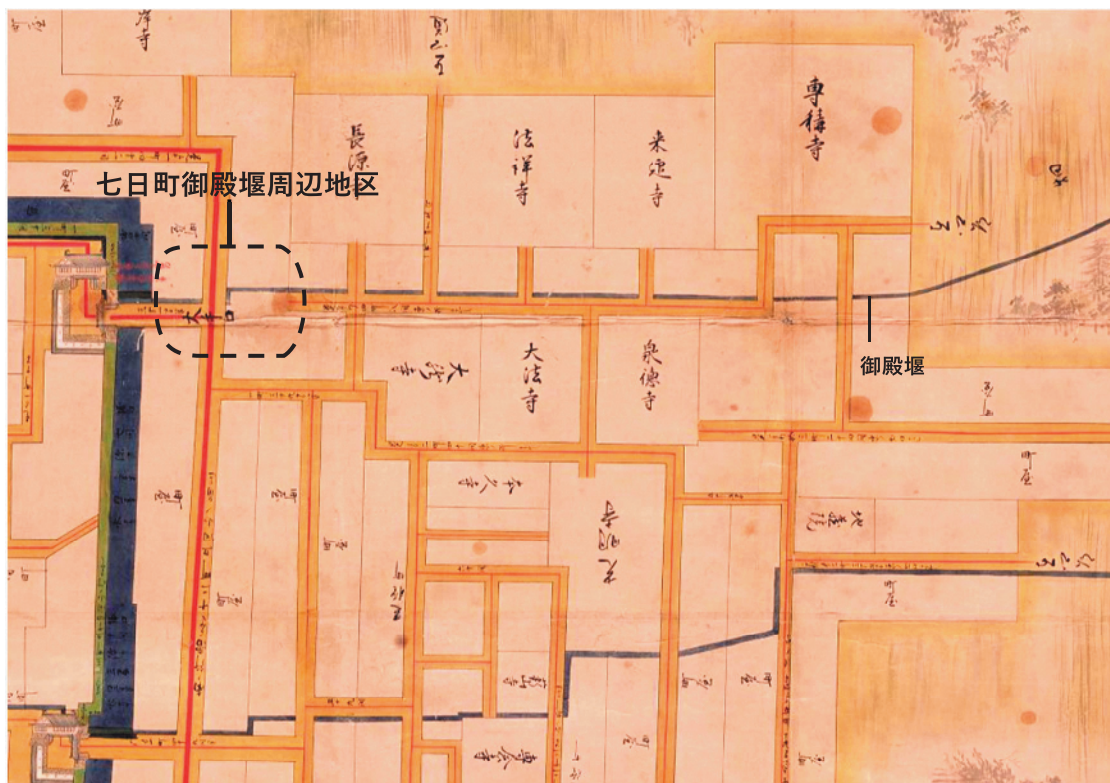


〈明治初期に創業した料亭〉



〈町屋の趣を再現した商業建築〉

2 御殿堰の歴史



〈正保城絵図（1644 年頃） 国立公文書館所蔵 加筆〉

「御殿堰」は「山形五堰」の一つで、七日町の中心を東西に流れる農業用水堰です。寛永元年（1624 年）、当時の山形城主鳥居忠政が城濠への水の供給と生活用水・農業用水の確保のため築造したとされ、御殿堰の全部と笹堰の一部の水が山形城の城濠に流入されていたことから、城下の形成にも深く関係し、景観の特徴となっていました。

馬見ヶ崎川が上流から運んだ石を積み上げて整備した御殿堰は、かつては趣を感じる姿でしたが、高度経済成長期の生活排水等の流入により水質が悪化すると暗渠化が進み、七日町の日常から姿を消していきました。



〈馬見ヶ崎川〉



〈敷地の背割を流れる御殿堰〉

このような状況の中、御殿堰周辺の地権者からの働きかけが契機となり、平成22年（2010年）、七日町大通りの東側部分において、この御殿堰を歴史的・文化的資産として石積み水路に再生する整備が行われ、七日町の日常にかつての水の流れる姿が蘇りました。今後、東西に堰の再生整備が行われていく予定です。

また、令和5年（2023年）11月に御殿堰を含む山形五堰が、世界かんがい施設遺産に登録されました。



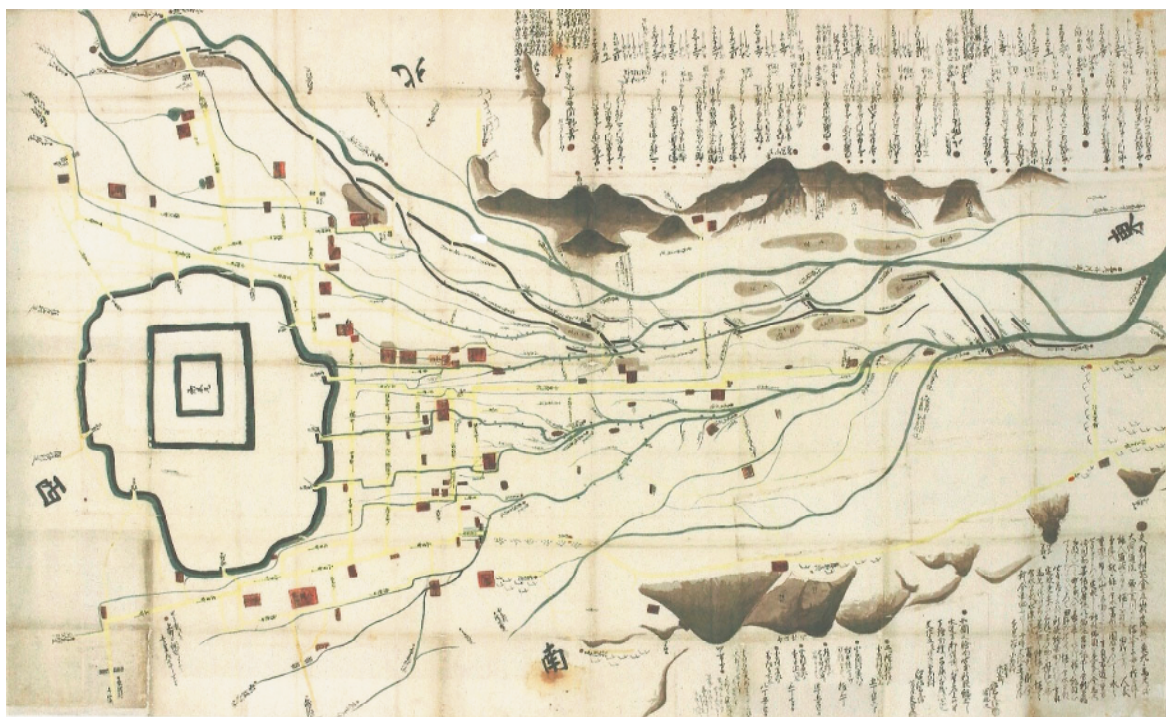
<再整備された御殿堰①>



<再整備された御殿堰②>



<再整備された御殿堰③>

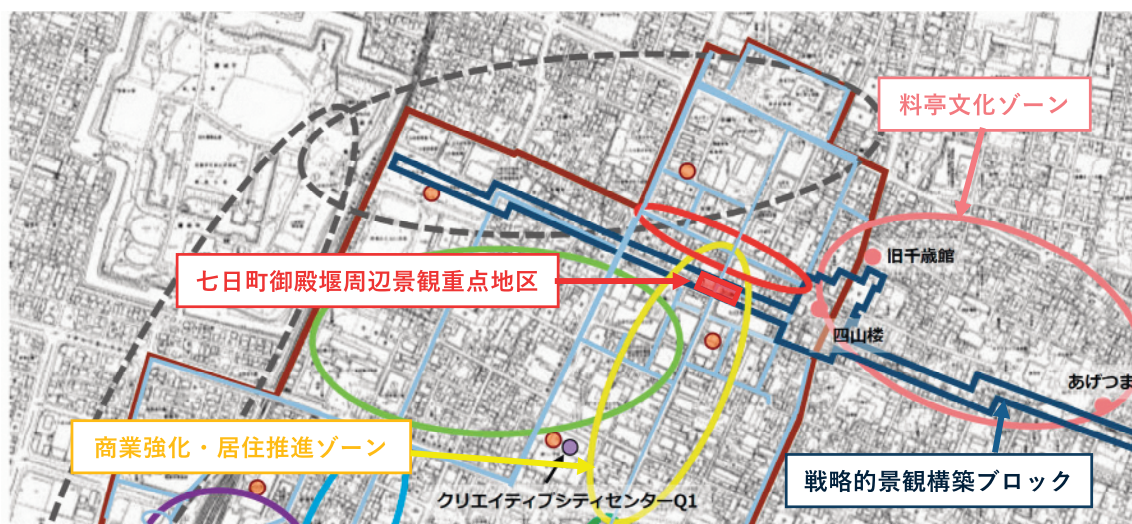


<1818年に書かれたとされる水路図 小白川財産区所蔵>

3 上位計画（山形市中心市街地グランドデザイン）における位置づけ

「山形市中心市街地グランドデザイン」は、商業機能だけでなく、居住、観光、ビジネス環境、医療・福祉・子育て、文化芸術等の要素において、それぞれ魅力を向上させることでエリア全体の価値を高め、民間・行政に関わりなく、新たな投資や人の流入を促し、時代のニーズに合った新しい中心市街地を創造することを目的としています。グランドデザインにおいて本地区は、以下の2つのゾーンに位置づけられており、御殿堰沿いについては、「歩きながら街を回遊したくなるような場所」に整備していくことを目指しています。

〈ゾーニング計画〉



■商業強化・居住推進ゾーン

本ゾーンは、街区の中に休憩・休息スポット等の余白が確保できるよう検討し、歩いて楽しい空間を創出するゾーンです。御殿堰の景観を活かした街区整備はそのモデルとなっています。

■戦略的景観構築ブロック（御殿堰修復エリア）

本ブロックでは、寺院が多く立ち並ぶ寺町から霞城公園までの区間において、水路の開渠や石堤化、沿道の緑化や歩道の整備、堰に隣接する魅力的な店舗の出店などを促し、周辺を御殿堰と調和した風情のある空間に整備することで、そこでゆったりとした時間を過ごしたり、「御殿堰沿いを歩きながら街を回遊したくなるような場所」へと構築するブロックです。

■料亭文化ゾーン

本ゾーンは、料亭文化を積極的に活用し、官民が一体となって、身体性・偶発性・希少性の創出や、滞在する場としての空間、緑豊かな空間の整備を行うゾーンです。

4 ■ 七日町御殿堰周辺地区の景観の概況

■ 建築物等

御殿堰の両側には、低彩度色の町屋風建築物が立地し、堰と調和した趣のある景観が形成されています。建築物の外壁は、敷地境界から大きくセットバックするとともに、それにより生み出された空間は、公共用地と調和する仕上げが施され、歩行・滞留空間として、御殿堰と一体的な景観が形成されています。また、前庭や中庭などにおいて緑化が行われています。

建築物の入口は、堰に面するように設けられ、堰沿いを歩くと建築物（店舗）内の賑わいを感じることができます。



〈景観の概況〉

- 御殿堰の両側に町屋風建築物が立地
- 店舗の大きなガラス面から建物内部の賑わいを感じられる
- ガラス面への広告物等のはり紙が目立つ
- 店先ののれんや鎖樋により風情を感じられる
- 公共用地と調和したデザインの舗装がみられる
- 前庭や中庭などにおいて緑化が行われている

緑との調和に配慮した、ベージュ色の明るい外壁の洋風建築物が立地しています。敷地は常緑樹による緑化が行われているとともに、舗装は壁面と一体となったデザインがみられます。



〈景観の概況〉

- ベージュ色の明るい外壁の洋風建築物が立地
- 常緑樹による緑化がみられる
- 壁と敷地は一体となったデザイン

■公共用地

「水の町屋七日町御殿堰」及び「七日町ルルタス」の区間の御殿堰は、昔ながらの石積みで再生され、歴史的な水辺景観が形成されています。

また、再生された御殿堰沿いには、高木が植えられ、堰と一体となった風情をつくりだしています。



〈景観の概況〉

- 御殿堰の一部区間は石積みで再生
- 水辺空間と一体となった風情を演出する緑化

「十一屋本店」及び「オワゾブルー山形」の区間の御殿堰も石積みで再生するとともに、階段状の空間をしつらえることにより、親水性を確保したデザインとなっています。



〈景観の概況〉

- 階段状のデザインによる親水性の確保

国道112号（羽州街道）には、両側に幅員約3mの歩道が整備されています。



〈景観の概況〉

- 落ち着いた色彩の舗装が整備